

＜ もくじ ＞	
1. 2015年度総会・第14回大会のお知らせ	1
2. 第1回研究会合同イベント(3/14)の報告	1～2
3. 研究会からのお知らせ	2～3
4. 各研究会の概要報告	3～4
5. 濱口副会長講演のご案内	4

1. 2015年度定時総会・第14回大会のお知らせ

日程：2015年6月7日(日) (第一部《総会》10時～、第二部《大会》11時～)

会場：お茶の水女子大学 本館3階306室

大会テーマ：『エイジフリー社会をめざして』

◆ 基調講演

講師：清家 篤(慶応義塾長、当学会副会長)

テーマ：エイジフリー社会をめざして (13:00～14:00)

講師の清家 篤氏は2013年8月の「社会保障制度改革国民会議報告書 ～確かな社会保障を将来世代に伝えるための道筋～」の巻頭では「日本を世界一の長寿国にした世界に冠たる社会保障制度を、将来の世代にしっかりと伝えるために、現在の世代はどのような努力をしたらよいか、ということを考え抜いた私たち国民会議の結論」と書いておられるこの会議の会長です。

著名な労働経済学者で、当学会の副会長によるご講演をお見逃しなくご参加ください。

◆ 会員体験報告(11:00～12:00)

私の考える「エイジフリー社会」をテーマに、澤岡理事の司会で竹川勝雄、中村昌子、小宮健吉、高島芳美、牧野俊浩の各氏にご報告いただきます。

◆ ワールドカフェ(14:10～16:00)

テーマ：「エイジフリー社会をめざして」(司会進行：黒澤眞澄・川村匡由)

昨年大好評だった全員参加、老若男女まじりあつての意見交換を行います。

今回は昨年より長めの時間をとりましたので、みなさまのご期待に副えると思います。

◆ 懇親会(17:00～18:30)

会員、非会員を問わず各地域で活躍している方々との意見交換や、いろいろと参考になることも率直に聞ける場ですので、是非ご参加ください。

2. 第1回研究会合同イベント(3/14)の報告

「あれから5年～私たちはフクシマを忘れない」と題するシンポジウムが、3月14日に日本労働者協同組合連合会8階会議室で開催されました。このシンポジウムは、本学会の5つの研究会が合同で行うイベントの第1回の試みとして「災害と地域社会」研究会が企画したものです。当日は会員・非会員を併せて52名の参加があり、熱気に包まれた雰囲気の中で終了しました。シンポジウムでは、二人の研究者の報告と、横浜で避難生活を送っておられる浪江町民および、東京で福島からの避難者をサポートしておられる当学会会員からの現状と活動についてのお話および研究報告についてのコメントを中心に進められました。

第1報告者の坂田正顕さん(当学会会員)からは、「相馬中村藩の災害史から学ぶ」と題する報告がありました。浪江町の歴史をさかのぼって過去から学ぶという研究の中間報告的内容という

ことでしたが、いまだに災害関連死が増え続けている浪江町の現状を踏まえて、原発事故災害を含む2011年3月11日の災害の特質について問題提起をされたあと、江戸時代後期の天明の飢饉後の急激な人口減少に対して、当時の相馬中村藩が取った対策から現在にも生かせるようなヒントを探るというものでした。とくに、加賀の浄土真宗門徒が大量に相馬地区に移住してきたという話、強力なリーダーシップとそれを受け入れる真宗民の価値意識の特異性、相馬中村藩の復興過程に二宮尊徳が関わっているという話など、興味深い話題が含まれていました。

第2報告者の白木里恵子さん（早稲田大学理工学部助手）は、同大学佐藤滋教授のグループの一員として浪江町の復旧支援に参加し、町民中心のNPO団体とともにつくられた「復興塾」の活動とその経緯について、かなり詳細に報告されました。浪江町から避難して福島県内をはじめ全国に避難している浪江町民の意向を慎重に確認しフィードバックしながら、また、早稲田大学内ばかりでなく他大学の研究者とも連携しつつ粘り強く活動され、着々と成果を生み出しつつある経緯を紹介されました。具体的には、福島県内のいくつかの地域に分散して「町外コミュニティ」をつくり、それらをつなぐ移動手段と情報交流手段の設計と、町内で宿泊できる拠点を形成することによって、時間をかけて復興していく案の実現に向けて、現地NPO法人と協力している様子をお話しされました。

その後、休憩をはさんで第2部では、研究報告に対するコメントとともに、避難者の避難生活の実態や避難者を受け入れている地域での活動について、当事者の立場にいるお二人の方からお話をいただきました。

浪江町からの避難者、伊藤まりさんは、地震のあと自分の家を出た後そのまま4年間帰れなくなるという事態を想像できるでしょうかという会場への問いかけから始まり、現在避難している横浜に至るまでの移動を繰り返すうちに、父母を亡くし犬を亡くし、かなり精神的なダメージを受けながらも、自分は何とか福島に定期的に行ったり海外にボランティアで出かけるまでになったが、鉄工所を経営していた夫は、仕事ができない状況の中で人との付き合いも少なくなってしまっていることなど、震災直後から現在に至るまでのご自身の窮状について、また今後の生活および浪江町の存続可能性への不安や期待について、かなり具体的にお話しいただきました。また、坂田報告や白木報告についても、近くのお寺の住職、親戚、知人、友人など身近な関係者の話を踏まえて、報告内容に裏付けを与え、補完するような大変興味深いコメントをいただきました。

皆川一さん（当学会理事・運営委員）は、まず、自分の居住する中央区で東北被災地からの避難者の数を把握しながら、区も社会福祉協議会も何もしていないと聞いて唖然とし、誰かが何かをしなければいけないという思いから仲間を募って活動を始めた経緯を説明されました。それは2か月に1回の「もんじゃ焼き」を囲んでの避難者同士の交流の会です。最初は1人だった避難者も徐々に増え、普段は話せない思いをお互いに自由に話せる雰囲気が出てきたということです。とくに子供のいる若い女性が多く、夫との離れた生活や別居などの問題が徐々に話題に上るようになり、さらにはサポートするつもりで参加した人びとも、一緒になって何かをつくりだすことを考えるようになり、自分の居場所として意識できるような場が出てきたとのこと。また、これからの浪江について、帰るか帰らないかの二者択一でない選択肢を考え出していくことの重要性について指摘されました。

限られた時間ではとても語りつくせない内容であり、報告者とコメンテーターには話し足りない思いが多々残ったことと思います。また、質疑応答の時間はほとんどありませんでしたが、会場からは、ミクロなレベルの議論ばかりでなく、もっと歴史の流れや原発設置の背景などを深く調べ議論する必要があるという意見や、目に見えないレベルでの人びとの失ったものの意味をよく理解できた、また心のケアの重要性を感じたという意見もありました。避難者が家族や人間関係などについて抱えている問題や避難者を巻き込んで行われている活動については、会場の参加者にも十分共感が得られたように思います。今回で終わらせることのできない広がりを持つテーマであり、今後の議論の場をどのように継続していくかが新たな課題となりました。

3. 研究会からのお知らせ

(1) 第19回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

当研究会は、第19回以降を第2ステージとして位置づけ、出版計画に伴う編集内容などのテーマを中心に進めて行きます。

- 1) 日 時：2015年4月27日(月) 17:00~20:00
＜開催時間が変更になりましたので、ご注意ください。＞
- 2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：① 濱口座長のレクチャー
『どっこい生きている、コミュニティ—なぜコミュニティ・地域社会・共同体が問題になるのか—』
(※なお、当レクチャーは計画中の出版本の第1章に掲載されるテーマです。)
② 『出版計画』についての討議
- 4) その他：研究会費として300円徴収させていただきます。
*お問い合わせ等は、事務局・島村までお願いします。

(2) 第22回「災害と地域社会」研究会開催について

- 1) 日 時：2015年4月28日(火) 18:00~20:00
 - 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 戸山キャンパス 39号館 第7会議室
 - 3) 報 告 者：星野英紀氏(元大正大学学長、現理事)
 - 4) タイトル：震災の復旧・復興と宗教文化の行方—福島県を中心として—
 - 5) 参加費：500円(学生は無料、ただし社会人入学者を除く)
- ※お問い合わせ、参加申込は事務局・福原(fukuhara@jaas.jp)迄お寄せ下さい

(3) 第86回 社会保障研究会 開催のお知らせ

- 1) 日 時：2015年5月20日(水) 18:00~20:00
 - 2) 報告者：望月 幸代(ミス総合企画)
 - 3) テーマ：「改訂介護保険について(仮)」
 - 4) 会 場：高齢者生活協同組合 会議室(会場が変わりましたので、ご注意ください)
東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル 7・8階 会議室は8階になります。
- ※ご質問がございましたら、佐藤まで。090-4436-6853 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp

(4) 第20回「シニアのICT活用研究会」開催のご案内

5月の月曜日に開催の予定で調整を進めています。話題提起者と開催日が決定次第、シニア社会学会のホームページでご案内いたします。

- 1) 日 時：2015年5月の月曜日 17:00~19:00
 - 2) 場 所：(公財)ダイヤ高齢社会研究財団 会議室
新宿区新宿一丁目34番5号直田ビル3階
 - 3) 話題提起者：未定
 - 4) テーマ：未定
 - 5) 参加費：500円
- ※参加のご連絡およびご質問については、澤岡 sawaoka@dia.or.jp(@は、半角にしてメール送信ください)までご連絡ください。

4. 各研究会の概要報告

(1) 第18回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：2015年3月23日(月) 15:00~18:10
- 2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：「出版計画」についての質疑応答・意見交換
*2016年3月発刊予定の「出版計画」について討議を行ないました。特に出版に当たっての費用負担の考え方について及び内容・目次についての質疑応答と提案が出されました。当テーマは次回引き続いて行なうことになりました。(島村記)

(2) 第21回「災害と地域社会」研究会の報告

- 1) 日 時：2015年3月31日（火） 18：00～21：00
- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス39号館6階 第7会議室
- 3) 報告者：野坂 真（早稲田大学大学院社会学コース博士後期課程、岩手大学非常勤講師）
- 4) タイトル：津波被災地域における災害対応と地域社会の持続可能性—大槌町における〈住民生活を支える諸機能〉の長期的な再編過程という視点から—

報告者である野坂真氏は、震災後から今日に至るまで、岩手県大槌町に毎週通う中で、災害ボランティアとしての活動を続ける一方、災害社会学の立場から研究者としての観察と分析を続けてきました。その研究成果は、本研究会でも、毎年ご報告いただいておりますが、今回は3回目の報告になります。同氏は、被災地の災害を、大槌町という行政区域内のある規模の地域コミュニティを対象に、一方では、災害前、緊急段階、応急段階、復旧・復興段階という長期的時間軸においてそのコミュニティの変容過程をとらえるとともに、他方では、対象となる地域コミュニティの内的・外的広がりの中で、そのコミュニティを維持している社会的諸要因（地形に応じた地域開発・振興、人口構造、行政と地域組織など）と人びとの生活条件（就業構造、家族構造、地域組織など）の関係に注目しながら、住民生活を支える社会的諸機能（①行政機能、②商業機能、③地域産業機能、④居住機能とそれを支えるコミュニティ機能）の変容過程を分析するという視点から、地域社会の持続可能性を探り出していくという研究枠組を明確にしてきました。このような研究枠組にしたがって、これまで収集された資料やインタビューデータの位置づけと分析を行い、今回の報告では、①地域生活を支える各機能を複数の地域に依拠して暮らす人がいることを前提とした各社会的機能のあり方や地域存続の戦略を検討する必要があること、②人々が協働する場や活動の持つ意義を、1つの社会的機能からのみ評価するのではなく、複数の機能から評価する視点の重要性が確認されたということです。（本報告は、早稲田大学・震災復興研究論集編集委員会編 監修▶鎌田 薫『震災後に考える—東日本大震災と向きあう 92の分析と提言—』早稲田大学出版部、2015 のなかに収められた同氏の論文をもとにしています。）

報告後は、活発な質疑応答が行われましたが、詳細は省略します。また、3月14日のシンポジウムについての報告もなされ、できれば秋ぐらいに、本研究会で新たな議論の機会を設けることについて話し合われました。（長田攻一 記）

5. 濱口副会長講演のご案内

濱口副会長が発起人でもある『大磯コミュニティ・カレッジ』の開講講座に、ご本人が3回に亘り講演されますのでご紹介します。なお当イベントは当学会後援であります。

- 1) 日 時：第1回 6月4日（木） 14：30～16：30
第2回 7月2日（木） 同 上
第3回 8月6日（木） 同 上
 - 2) 会 場：社会福祉法人 エリザベス・サンダース・ホーム
（神奈川県中群大磯町大磯1152）
 - 3) テーマ：「顔の社会現象学」～顔は人生の表街道である～
 - 4) 申込み・問合せ：電話0463-61-0476（こみゆにてー・パティオかりん・富山氏）
 - 5) 参加費：1回 1,000円
- 大変興味深いテーマです。是非ご参加下さい。（島村記）

一般社団法人シニア社会学会・事務局（月・水・金オープン）
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階
電話&FAX：(03) 5778-4728
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>